

□議員名：山田伸幸

1 子育て支援について

論点	子どもの医療費は中学校卒業まで無償化が実現できているが、県内では多くが高校卒業まで無償化となっていて本市は遅れている方だ。高校卒業まで医療費無償化を広げてはどうか。
回答	子育て支援の一環として有効な手段と考えている。昨年中学卒業まで所得制限なしに無償化したばかりだ。子育て支援策は多岐にわたっており、本市だけの特徴もある。無償化を高校卒業まで広げるには6,000万円の予算が必要であり、財源の確保が問題だ。

論点	県内の多くの市町が高校卒業まで無償化している中で、本市の特徴である大学のあるまちとして、大学卒業まで医療費の無償化を広げてはどうか。
回答	大学となると成人であり理科大学以外の大学生もおり、就業している人もおり、より慎重な検討が必要だ。

論点	学校給食費の無償化を実現する考えはないか。県内でも無償化を実現したところが半数を超えている。
回答	子育て支援の効果も十分に理解している。実施には相応な財源が必要だ。安定的な財源を確保しつつ、着実に取り組むことが求められている。国の補助金や交付金といった恒久的な特定の財源確保が見通せない状況においては、実施は難しい。

論点	保育料のうち、多子世帯の第2子の保育料無償化してはどうかという質問を準備していたら、県が9月から助成金事業を興すと発表があった。本市も負担は必要だが、この助成制度にのり第2子の保育料を無償化する考えはどうか。
回答	県の発表は知っている。詳細情報をつかんで、無償化について検討していく。

2 職員の女性登用と非正規職員の状況について

論点	市役所職員の給与表を見ると、上級の分布に女性職員が圧倒的に少ない。公平な人事施策となっているのか。
回答	年齢層が高いところでは女性が少ないが、30才未満では女性が多い。

論点	世間の状況は女性進出がめざましく、女性の持つ能力を活用する動きが強くなっている。しかし本市では女性幹部職員の比率が低いのではないか。
回答	管理職は80名でそのうち女性が18名で22.5%。女性を登用する考えは当然持っている。女性の人材育成、意識改革が必要と考える。女性にも活躍して貰いたい。

論点	非正規職員の給料や男女別の採用についての考えはどのように持っているのか。
回答	非正規職員は正規職員を補助する位置づけで、全体で256名いる。男性が51名、女性が205名で8割が女性となっている。